

2016年4月作成

2017年4月更新

2020年2月更新

2023年3月更新

1. 論文の長さ・書式・体裁
2. 論文の構成
3. 表紙
4. 要旨
5. 目次
6. 本文
7. 文献
8. 付録

1. 論文の長さ・書式・体裁

- ・長さ（表紙・目次・注・付録・文献目録を除く）

日本語 本文のみ 16000 字以上

中国語 本文のみ 10000 字以上（スペースを含めない）

コリア語 本文のみ 10000 字以上（スペースを含める）

英語 本文のみ 4000 words 以上

（独・仏・西・露語は英語に準じる）

- ・書式・体裁

A4版用紙に横書きとし、ワープロを使用する。

日本語の場合は、40字×30行、明朝体 10.5ポイントとする。

欧文の場合は、1 ページ 30 行、Century 10.5 ポイントとする。

日本語・欧文ともに余白は、左35mm 右25mm 上30mm 下30mmとする。

ページ番号を本文のページ下中央に、アラビア数字（半角）で振ること（表紙、論文要旨、目次には振らない）。

2. 論文の構成

論文の構成は次の通りとする。

- ・ 表紙
- ・ 要旨

5. 目次

- ・本文の章に章番号と章題をつけ、節も同様にする。章と節の上位と下位の分類が分かるようにする。章や節にはページ番号も記載する。細かい体裁は指導教員と相談すること。

例)

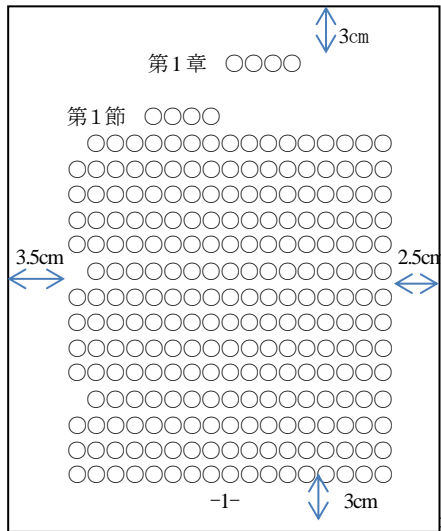
序論.....	1
第1章 ○○○○	
第1節 ○○○○.....	2
第2節 ○○○○.....	4
第3節 ○○○○.....	6
第2章 ○○○○	
第1節 ○○○○.....	10
第2節 ○○○○.....	12
第3章 ○○○○	
第1節 ○○○○.....	14
第2節 ○○○○.....	16
結論.....	18
文献目録.....	22
付録.....	23

はじめに.....	1
1 ○○○○.....	2
1.1 ○○○○.....	2
1.2 ○○○○.....	4
1.3 ○○○○.....	6
2. ○○○○.....	10
2.1 ○○○○.....	10
2.2 ○○○○.....	12
3 ○○○○.....	14
3.1 ○○○○.....	14
3.2 ○○○○.....	16
おわりに.....	18
文献目録.....	22
付録.....	23

6. 本文

- ・書式と体裁の指示に従い、当用漢字、現代かな遣いを原則とし、外国語をカナ書きする場合はカタカナを用いる。欧文の原綴りおよび数値は半角で Century のフォントを用いること。
- ・図（写真も含む）や表は、該当する場所に、見やすい形で挿入する。原則として、図や表にはそれぞれ通し番号とタイトルを付ける（例えば、章ごとに、図1.1、図1.2、表3.1、表3.2）。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付すこと。また、図や表の出典は注などで明記すること。
- ・章が変わるごとにページを新たにする（改ページ）。
- ・その他の本文の書式については「GR 学部生向け 書式の手引き」も参照のこと。

例)



*日本語の場合は、40字×30行
欧文の場合は30行

7. 文献

- ・注（notes）および文献目録（bibliography）は統一した形式（スタイル）で記すこと。標準的な形式にはシカゴ・スタイル、MLAスタイル、APAスタイル、オックスフォード・スタイルなどがあるが、指導教員と相談の上、自分の論文に適切な形式を選ぶこと。また、「GR学部生向け書式の手引き」も参照のこと。

・注

直接引用をしたり、解釈を援用したり、補足説明をする際には注が必要である。注を付すには、本文の該当箇所の右肩に注番号をつける（例えば、である¹。）。注の書き方には、該当するページの下部に記す「脚注」と本文の最後一括して記す「文末注」があるが、「脚注」を推奨する。注の番号は原則として論文全体で通し番号とする。なお、こうした注の付け方以外にも、文章の中にカッコで括って記す方法もある。引用あるいは参照した文献を適切に注で明示しないと、剽窃とみなされるので、くれぐれも注意すること。

・文献目録

引用文献を含め、参考にした文献について、文献目録を付す。和文の文献は著者（共著は第一著者）の姓の五十音順に、欧文の文献は、著者（共著は第一著者）の姓のアルファベット順に記す。必要に応じて、書籍、雑誌論文、映像資料などの項目に分ける。

8. 付録

- ・「本文」中に入れるには詳細すぎる資料やデータなどがある場合に付す（任意）。

9. 印刷

- ・片面印刷とすること（両面印刷不可）。